

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- ◎[共生] 人を思いやり、共に生きる喜びを学ぶことを大切にします。(徳・開・体)
- ◎[自律] 行動に責任をもち、集団の中で自分を生かすことを大切にします。(公・徳)
- ◎[発見] 様々な体験を通じて、自分を知り、学び、自らの生き方を見いだすことを大切にします。(知)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

「課題解決力」(知・体) 「自尊感情(自己肯定感・自己有用感)」(徳) 「コミュニケーション力」(公・開)	具体化した資質・能力
	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に主体的に取り組む力 集団の中の自らの役割に責任をもって取り組むことができる自分を認める力 話を聞く力、自分の考えを発信する力

中期取組目標

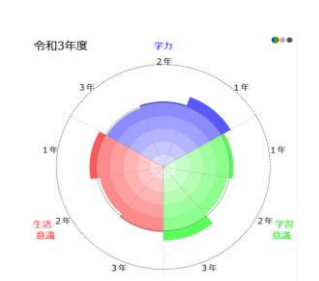
- 子どもたち一人ひとりがお互いの個性の違いを認めながら「全員を仲間と認める」「仲間と協力する」「仲間を大切にすること」を基本として、全職員で誰もが安心して生活や学習ができる学校づくりを目指します。
 - 授業に言語活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成を通して、確かな学力を身に付けられるようにします。
 - 人とのコミュニケーションを通して、他者を尊重する態度と、自己肯定感や自己有用感を育てます。
 - 様々な活動を通して子どもたちの自治能力を高め、自分を生かす力を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①生徒の実態に応じた教科相談を実施していくとともに、学級学習の日を活用し、教科の補習等を行う。 ②授業見学や研究授業の際に参観メモを活用する等の工夫を通じて授業者へのフィードバックを確実にし、参観者・授業者共に研究を深める。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
学びに向かう姿勢は、教科全般にわりと高く、学力は市の平均に近い。学校評価では、授業は「よく分かる・だいたい分かる」と回答した生徒が半数を超える。各教科、基礎・基本の定着を図るとともに、それをどのように使うか、生徒の興味・関心を生かし、学力向上へとつなげていきたい。



(2) 会議等を入れない日を設定し、各学年に応じた教育相談を実施したが参加者が少ないので実施方法を検討中。
形式にこだわらず教職員が相互に授業を参観しあい、意見を交換することで授業改善につながっている。しかし、全職員が実施するには課題が残る。

今年度の目標

ICTを活用して「課題解決力」「自尊感情」「コミュニケーション能力」を育む授業を実践し、授業改善に取り組み、学習評価の充実を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> ①教科相談は、定期テスト前、学級学習の日、放課後等を活用し、相談できる教科を増やし実施する。 ②授業見学は、職員が参加しやすいように、3日前には全体に周知する。研究授業を7月に行い、神奈川中ブロックの小学校にも周知し授業検討を行い、授業改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教科相談は、定期テスト前、学級学習の日、放課後等を活用し、相談できる教科を増やし実施する。 ②授業見学は、職員が参加しやすいように、3日前には全体に周知する。 ③各教科においてICT機器を活用した学習に取り組んでいる。今後も活用する機会を増やして、どのような使い方が学習において効果があるかということも研究考察していく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①「特別の教科 道徳」のより充実した授業展開に向け指導と評価のあり方等について全職員で研修を行う。 ②確かな人権感覚や意識を育成するため、各行事のねらいに「仲間を大切にする態度の育成」を明記する。併せて、教師が生徒を、生徒が他の生徒を「認め・褒める場面」と「具体的方法」を実施要項に明記する。
担当	学習指導部(道徳教育)

豊かな心に関わる本校の状況

・自分のよいところに気づけない、何かをやり遂げた達成感を感じられない生徒が市全体に比べてやや多い。
・「誰かの役に立つ人になりたい」と考える生徒の割合がすべての学年で市全体より下回る。
・人の気持ちを考えて行動することに対して、積極的な生徒があまり多くない。

今年度の目標

豊かな体験活動で培った子どもの問題意識をいかして道徳の授業改善を進め、校内研修を通して、教職員の授業力の向上を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>【「道徳の授業」の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ローテーション道徳や職員研修を通して、全職員でより魅力のある授業づくりを目指す。 話し合い活動やグループワークを積極的に取り入れ、仲間と共に学習を進めていく中で「自分づくり」と「仲間づくり」に努める。 <p>【確かな人権感覚・意識の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種行事の目的の中に、仲間を大切にする態度の育成を明記する。 生徒全員が人権作文に取り組めるよう、丁寧で具体的な事前指導を行う。 世界との関わりについて考える機会をふやす。 総合的な学習の時間(平和学習)と連携し、身のまわりから世の中の平和について関心を持って考える機会をふやす。 	<p>【「道徳の授業」の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ローテーション道徳や職員研修を通して、全職員でより魅力のある授業づくりを目指す。 話し合い活動やグループワークを積極的に取り入れ、仲間と共に学習を進めていく中で「自分づくり」と「仲間づくり」に努める。 <p>【確かな人権感覚・意識の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種行事の目的の中に、仲間を大切にする態度の育成を明記する。 生徒全員が人権作文に取り組めるよう、丁寧で具体的な事前指導を行う。 世界との関わりについて考える機会をふやす。 総合的な学習の時間(平和学習)と連携し、身のまわりから世の中の平和について関心を持って考える機会をふやす。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①「健やかな体の育成プラン」に基づき、「体力・運動能力調査」や「学力・学習状況調査の生活・学習意識調査」等の結果を振り返り、自己の健康に興味をもたせ、体力向上や生活習慣の改善の意識を持たせる指導を行う。 ②昼食や家庭科の授業等において食育の推進をはかる。
担当	保健安全指導部・保健体育科

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 体育・健康に関する実態
・保健体育の授業では、多くの生徒が意欲的に授業に取り組んでいるが、単元や種目によって得意苦手授業への取り組み方が安定しない生徒もいる。
・保健体育授業や部活動中の怪我が多く見られる。
・昼休みは、サッカーやバレーボールなどで遊ぶ生徒の姿も見られるが、男女によってばらつきが見られる。学年が上がるにつれて活動する生徒が見られる。
・朝食を毎日きちんと食べている生徒は9割以上いる。しかし、食事の栄養バランスに関しては、偏りのある生徒も見受けられる。
(2) 体力の概要と要因の分析
コロナ禍から制限が和らぎつつあり、生徒たちの体力向上が少しずつみられる。部活動の関わりもあるが、保健体育の授業開始時に筋力トレーニングや補強運動などを行っていることが関係していると考えられる。
(3) 家庭科の授業や保健委員会の取組
・家庭科の授業の中で栄養素の働きや献立のたて方、食の安全、食文化等を学習している。
・昼食時、バクバクだよりを放送している。栄養教諭による栄養指導を実施している。

今年度の目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質や能力を育てる。
・食に関する正しい知識と望ましい食生活習慣を身につけさせる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<ul style="list-style-type: none"> ①保健体育科の授業開始時に種目ごとに適した、効果的な補強運動や体力を向上させる運動を継続していく。 ②体力テストの自己の結果をもとに、改善を図るとともに、体力テストの結果を振り返り、自己の体力に興味・関心をもたせ、体力向上や生活習慣の見直しを図るための時間を定期的に設ける。 ③保健体育科では、生徒が自ら課題を発見し課題を解決することにより、運動技能を高めるとともに、運動の楽しさや達成する喜びを味わえるよう、「生徒が主体となる学習活動」を重視する。さらに、仲間との対話を通じて更なる課題解決に向けて取り組めるようにする。 ④家庭科との連携を図り、食教育との関連付けを行い保持、増進に取り組めるようにします。 ⑤毎昼食時に保健委員会による「バクバクだより」を放送し、職の栄養や文化について伝える。 ⑥毎月1回、白幡小学校栄養教諭から、栄養指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①保健体育科の授業開始時に種目ごとに適した、効果的な補強運動や体力を向上させる運動を継続していく。 ②保健体育科では、生徒が自ら課題を発見し課題を解決することにより、運動技能を高めるとともに、運動の楽しさや達成する喜びを味わえるよう、「生徒が主体となる学習活動」を重視する。さらに、ICT 仲間との対話を通じて更なる課題解決に向けて取り組めるようにする。 ③家庭科との連携を図り、食教育との関連付けを行い保持、増進に取り組めるようにします。 ④毎昼食時に保健委員会による「バクバクだより」を放送し、職の栄養や文化について伝える。 ⑤毎月1回、白幡小学校栄養教諭から、栄養指導を継続する。